

## —— 鐵 鋼 ニ ュ ー ス ——

### 日本學術會議會員の選舉

日本學術會議第三期會員の選舉は予定の通り行われ、その開票は12月12日終了当選者が確定した。今回の投票率は有権者総数79,823名に対し投票総数72,545票(90.9%)で、前回の90.5%を上回り、このうち第5部関係は投票数23,775票(90.0%)となり、有権者のこの選挙に対する深い関心を示している。なお第5部の競争率についてみると30名の定員(全国区23名、地方区7名)に対して立候補者53名(全国区37名、地方区16名)で約1.7倍になっていた。第5部当選者の氏名は次の通りで、本協会推薦の湯川正夫、菊田多利男の両氏とも当選した。

#### ○全国区(23名)

大塚忠比古(東洋高圧工業取締役)、北川一栄(住友電工専務)、湯川正夫(八幡製鉄常務)、大塚誠之(国鉄鉄道技術研究所々長)、児玉信次郎(京大教授)、菊田多利男(日立製作所中央研究所々長)、駒形作次(通産省工業技術院院長)、中尾徹夫(日本電々公社施設局長)、大野晋(特許庁審査第二部長)、佐藤正典(大阪府立工業奨励館々長)、岡田実(阪大教授)、中原寿一郎(日本鉄道技術協会理事長)、矢野勝正(京大教授)、井上春成(日本規格協会々長)、菊池明(建設省建設技監)、坂静雄(京大教授)、兼重寛九郎(東大教授、生産技研所長)、内藤多伸(早大教授、理工研所長)、浜田成徳(東北大教授)、抜山平一(東北大名誉教授)、直島正市(精機学会々員)、青山秀三郎(東大工学部長)、山県昌夫(東大教授)

#### ○地方区(7名)

北海道区 大賀恵二(北大工学部長)、東北區 渡辺寧(東北大教授)、関東區 大山松次郎(東大教授)、中部區 田淵寿郎(名古屋市助役)、近畿區 岡田辰三(京大工学部長)、中国四國區 島田兵蔵(中国電力社長)、九州區 井上八郎右衛門(三菱電機長崎製作所々長)、

### 毎日工業技術賞受賞

毎日新聞社では、11月17日第5回毎日工業技術賞の受賞者の決定を発表した。即ち受賞は「イルメナイト型溶接棒の研究」神戸製鋼所社長浅田長平氏及び「人織直接紡績機及び直接紡績方式の研究」豊田工機社長菅隆俊氏、東邦レーヨン社長佐々木義彦氏の二件で他に毎日

工業奨励賞として「苦汁から高純度水酸化マグネシウムの製造」赤穂西浜塩業協同組合理事長沢田豪一郎氏の1件がある。今年度の申請は機械関係29件、鉄鋼金属関係10件、電気関係9件、化学関係10件、窯業雑貨関係2件、鉱山関係2件、その他関係3件の合計65件である。今度受賞された「イルメナイト型溶接棒の研究」は本協会より推薦のものである。この毎日技術賞の受賞は鉄鋼界としては曾て富士製鉄の「ユーライト法」があり、今回は第2回目である。

### 青森縣に大砂鐵鑛發見

東北電化工業及び東北鋁業では、青森縣天間林を中心とする砂鉄鋁区の探査を行つていたが、このほど明らかにされたところによると、推定埋蔵量は約1億tといわれ、選鉱をせずして最大鉄分62%までが出せることと従来日本の砂鉄鋁区は水平状に賦存しているのが殆んどであるが、これは堅に賦存している点で特徴を有し、これが本格的に開発されると、従来の小規模な砂鉄精錬事業が、大規模な生産に轉換され得る可能性があるものとして関係方面から注目されている。

### 磁硫鐵鑛から純鐵生産

日本電解精錬ではかねて磁硫鉄鋁の完全利用による純鉄生産のため工場の新設を計画していたが、先に福島県鏡石村(郡山市郊外)に敷地2万1千坪を買収し、明年3月完成を目標として工事に着手した。

同社の磁硫鉄鋁活用は全工程を化学処理により硫黄、銅などを抽出し、さらに残渣を電解して純鉄を精錬しようというものである。この方法は粉末にした磁硫鉄鋁を塩化第二鉄溶液で処理すると、鋁物中の鉄分が塩化第一溶液となり、硫黄は沈殿する。このように不純物を化学的に沈殿させた上この液を濾過した後電解槽の陰極室に流入させ電解鉄を陰極上に付着させる方法である。これによれば鋁石品位によつて多少差異があるとしても大体鋁石1tから400kの純鉄の精錬並びに200kの硫黄の生産が可能といわれる。

### 日本鐵板新壓延工場建設

徳山鐵板では、大阪鐵板と合併し、日本鐵板として新発足することになったが、これを契機に大阪市島尾町旧大阪鐵板工場に新鋭圧延工場の完成を急ぐことになつ

た。此の両社の合併は逆転式冷間連続圧延機の新設計画にからむ設備の二重投資を避けようとするものであり、島尾町の新鋭工場の完成を明年4月に予定している。

### 淀川製鋼の高級仕上厚板設備完成

淀川製鋼では、かねて建設工事を進めていた呉工場の高級仕上鋼板生産設備を概ね完成、来年早々には試運転の運びとなった。同生産設備は米国プリズ社からのレバ・シグ・ミル輸入を主体とし資金的 15 億円を要したもので、年間生産能力は高級仕上鋼板 5 万 t で、大体 3 月頃には本格的稼働に入るものと見られている。

### 住友金属の粉末冶金生産

住友金属工業では、明年2月か遅くも3月頃から粉末

冶金の本格的操業を始めることを計画し、年内に米国から到着するはずのプレス、焼結爐を据付けるため同社吹田工場に基礎工事をすることになった。これは同社吹田工場で生産するSK磁石の品質向上を図るためかねて研究されていたもので、年内に米国ストーク社からプレスを、又米国リンドパーク社から焼結爐を輸入し、吹田工場に据付けるが、これと併行しすでに技術修得のため西ドイツへ技術者が派遣されている。

この粉末冶金（パウダー・メタラジー）はフェロアロイに代るもので、焼結熔融作業が簡単なことをはじめ、生産が比較的容易なところから、従来のフェロアロイに比べコストが低廉になり、且つ優良な冶金が得られるという利点があるとされている。

(1391 頁よりつゞく)

### 第 16 回鐵鋼要覽改編委員會

日時：昭和 28 年 12 月 3 日、16:30~19:00、会場：協会々議室。出席者：(委員長) 田中清治、(編集委員) 芥川武、岡本正三、志村清次郎、内山道良、長谷川正義、浜本甲子生、荒井 登、山木正義、佐藤忠雄、三橋鉄太郎、安田洋一、(臨時出席) 丸善：五十嵐君、森君。(協会事務局長) 橋本芳雄。

報告事項 1. 鉄鋼要覽を鉄鋼便覽と名称変更の件—10 月 14 日の理事会に於いて承認。2. 原稿完成、丸善に引渡済、整理校正中。3. 明年 4 月完成発刊の予定。

協議事項 1. 資料編設定の件(丸善提案) 本書の読者が購入の手引となる各社製品の機器、材料等を巻末に資料編として掲載し、収入は挙げて本書の定価引下げに投じて読者の負担軽減を計り以て本書の普及に努めたい—承認。

2. 索引作成上に関する件(丸善提案)。決定—原案通り。